

## 1. 活動報告（事務局 記）

—7月27日（火）例年活動助成をいただいています、中国電力(株) 宇部電力所の須賀河内川芦刈り整備が完了しました。今年は計画の当日7月14日この一帯に大雨洪水注意報が発令され本日に変更になったものです。

つくる会からは会長他 田村副会長、吉本、吉富、藤村、内藤、金子、原田武各会員と事務局で8名の参加でした。

中電からは柴田敏彰代表他AM12名、PM14名のボランティア参加を得て協働作業となり須賀河内川はすっかり清掃されました。大変暑い中参加されました皆様に感謝いたします。

—8月1日（日）①田んぼのコナギ・藻の取り除き、湿地帯タテバチドメグサ間引き  
②周囲27日に刈残した草刈を行いました。

15人+子ども2人の参加でしたが、猛暑のため早め11時半に活動をやめました、お疲れさまでした。

—8月9日（月）厚東中学校生徒会ボランティア活動 佐伯校長先生他教諭1名生徒6名、会より前田、吉富、内藤各会員（他今井会長、事務局挨拶）止水池のエコアップを行いました。  
尚 11日に第2回目に予定されていた11名参加の活動は台風のため中止となりました。

—8月21日（土）「夜の厚東川魚の生態調査」を行いました。

会員13名他関根会員婦人、ホームステイms ローレン、山大生東君、中本会員お母さんと子息2名合計19名の活動でした。キャンプは9名でした。

厚東川の魚種及び量が昨年以上に減少していることが分かりました。

—8月22日（日）大人の観察会「須賀河内川、ビオトープの水棲動物生態調査」

会員13名の参加でした。ハヤ（カワムツ）は大量に捕獲出来ましたが、種類はやはり減少しているようです。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定者はありません

◎ 行事

—9月 5日（日）維持活動（特に草刈とエコアップ）

—9月18日（土）観察会（秋の昆虫）

## 3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月もありません。

## 4. 会員の声 「二俣瀬木田の古城跡探索」part-2（内藤武頭 記）

「ロマン木田歯朶木丸城」先日二俣瀬町づくりサークル初会合に出席する。

終了後「浪漫があつていいですね」とメンバーの一人が言った。今までは歯朶木丸城の話を出すと一笑に伏されていた。「原田満さんは二俣瀬に何が何でも城跡をつくりたいようだ」と今回はサポートする笑いに変わったようだ。6月中旬厚東恒石八幡宮白石宮司さんの紹介による案内者と厚東吉見城跡を訪ねた。平たん地（50m×23m）、武者走り、切堀等全てスナップした。（井戸跡

はなし) 夢心地で下山した。案内者の隣家が原田事務局長の友人宅なので、ついでに表敬訪問した。

歴史大嫌い人間だった。夢ごごちに城跡の説明したが、即応「城跡なんありやせん。みんな作り話じゃよ。よう金にもならん事をするのおー」と一刀両断。快い汗は一瞬にして冷や汗になった。帰宅後冷たいビールを飲むと手は自然に史実書に伸びる。県の未指定文化財報告書「史跡(中世編)」のページをめくってみる。厚東氏配下の吉見氏の城とある。さらには参考文献「もりのしげり」にも同様な記述あり、事務局長の友人は何だったのだろうか? 歴史に興味のない人はロマンがなく、かわいそうに思えた。

厚東氏の時代、重臣であった吉見家は厚東川以西、現在の厚東東半分(吉見、下岡、岡村、中村、関口、春日、立熊)二俣瀬西半分(瓜生野、辻堂、薬師堂、木田)のほか小野の一部、万倉の一部、や川上の一部を領地としていたと言われている。その東端に周防からの防御を踏まえ木田に川を一部としての出城が有っても不思議でない。さらに文献、史実本を詳細に調べることになる。

二俣瀬橋より木田の山にカメラを構えて観た、昨日までは平凡な山が変貌、城山の風格を備えカメラレンズに迫ってくる。あれが歯朶木の丸の城跡か? 暑さのせいだろうか。

## 5. 大人の観察会 「川の生き物」

第一部 8月21日 土曜日 晴 参加者19名 (原田 記)

厚東川 夜の生態観察会を夕食準備班とワナ仕掛班とに分かれ18時より開始。ウナギ籠、カニ籠を川に設置し、準備万端。東屋で美味しいカレーご飯を食べ終わったころにはすっかり日も暮れ夕闇の中を厚東川河川敷公園から各自懐中電灯、網を持って川の中へ分かれ、流れのきついで、観察と一時捕獲と相成りました。投げ網を使った追い込み漁は流れがきついため捕獲0匹。

棲息していた魚の種類、量とも激減していることに愕然としました。自分が子どもの頃、さらには15年前ごろに比べ何たる有様であろうか、ほかに言表せる言葉もありません。なんとか捕獲観察した魚は、オヤニラミの稚魚、ハヤ(カワムツ)、ほうせんぼう(カマツカ)、スジエビ(モエビ)、カワエビ、川タナゴ(モロコ)等ハヤを除き各一尾ずつであった。

数や種類が少なくなった事は前述のごとくであるが、カワエビを約15年ぶり観察できた事は貴重であり大変うれしく思いました。あくる朝5時半ウナギカゴ、カニカゴを期待しながら揚げに7名で堂々出発! 獲物は「0匹」、参加した人数にたまげた(驚いた)ためであろうか?

かつての厚東川の魚は我々にとって動物性たんぱく質食の一部であった事が“ウソ”のようである。水の汚濁、水温上昇、えさの減少、川鵜の飛来等々が原因か? 捕獲者が増えた事はあり得ない逆に減少していると思われる。水環境の改善が早急に必要であると訴えたい。

7時半出来上がった朝食を食べて今回のキャンプ、厚東川夜の観察会を終了しました。会員13名のほか、留学生ミス ローレン、山大学生東君、自然観察OBの中本君兄弟、中本会員お母さん。関根会員奥さん等6名のお手伝いをいただいた事に感謝いたします。

第二部 8月22日 日曜日 晴 参加者 名 (関根 記)

21日の厚東川に続き、22日はビオトープの魚を調べました。ビオトープ創建当初は、須賀河内川をのぞき込むとカワムツ、オイカワの他、シマドジョウやムギツクなどもすぐに見つかったものです。最近ではカワムツばかりが目立つので、少し心配していました。今回は、できるだけたくさんの種類を集めることを目標に、つり、手網、投網、わな、潜水目視など、各自、思い思いの方法で調査しました。もっともたくさん捕れたのはやはりカワムツで、須賀河内川で大型のものが面白いように釣れました。しかし、手網でメダカやドジョウ、わなで大小のオヤニラミやムギツク、イトモロコ、アブラボテ、フナ、投網で婚姻色の出た立派なオイカワ、潜水目視でシマドジョウ、カマツカやモクズガニなど、方法毎にそれぞれ違った魚を確認することができました。改めていきものの隠れ上手に驚かされ、また、隠れ場所をつくる多様な環境の重要性に気付かされた次第です。場所毎の確認種は以下のとおりです。須賀河内川: カワムツ、オイカワ、オヤニラミ、イトモロコ、シマドジョウ、アブラボテ、モクズガニ、カマツカ、ドンコ、スジエビ、ヌマエビ。田: メダカ、ドジョウ、ドンコ、タイコウチ、マツモムシ、コオイムシ、ハイイロゲンゴロウ、ガムシ、ヤゴ。池: メダカ、フナ、カワムツ、ウシガエル。

## 6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

### （27）ショウジョウトンボ（トンボ科、ショウジョウトンボ属）

#### *Crocothemis servilia mariannae* kiauta

真夏の代表的なトンボ、5月頃より出現して11月頃まで見られます。北海道から九州沖縄まで幅広く棲息し、♂は成熟すると体色が鮮やかな赤色に変色し、♀は黄色から黄褐色に変わります。♂も羽化直後は黄色く♀と見分けが付きません。

平地や丘陵地の植生豊かな池沼、湿地、水田、溝やプール、海近くの汽水池にも生息域を持っているようです。羽化は真夜中から未明にかけて一般に行われますが、下の写真（3）はビオトープ内で午前中に撮影しました、常識外れの個体もいます。

写真（2）は別府市の神楽女湖（かぐらめこ）にて偶然に出会い撮影できたシーンです、ハラボソトンボを撮影しようとカメラをセットしていたおかげで間に合いました、2コマ切れず心配でしたがピントもなんとか合い作品にできました。



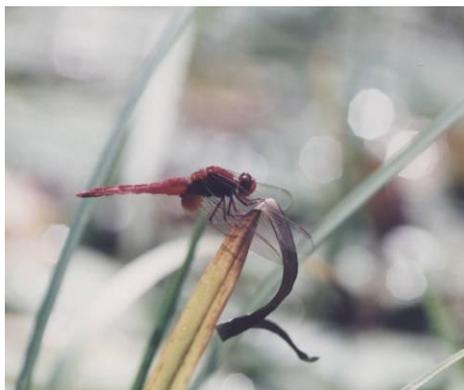
（1）♂の倒立



（2）老熟♀の腹に止まるハラビロトンボの♂



（3）羽化



池の中で縄張りを張る♂



休止する♀

## 7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

休耕田の 田んぼコナギの密生をどうしたらよいか? 智慧、力、を出して下さい。  
但し メダカ、ヌマエビ、スジエビ等大量棲息している水中動物を保護しながらです。

## 8. 編集後記

1歳7ヶ月になる我が家の長男。犬も猫も牛もゾウもみな「ワンワン」と呼びますが、とても興味があるようです。家で飼っているチャボのことは特に好きで、ケージから「チャボを出して!」と要求しては、自分で冷蔵庫を開けて青菜をあげたり、抱っこしたりしています。チャボも雌で気が優しいからか、長男につきあってつつきもせず、よくそのまま静かに抱っこされていきます。そろそろビオトープと一緒に伺いたいと思いますが、さて、どのような反応をするのでしょうか。半日の維持活動に連れていくにはまだちょっと早いかな…、でも小川で楽しむかな? 今は石ころや砂、水ばかり好きですが、虫や魚にも少しは目がいくかな…と思いながら、でも少しずつ、自然の中になじんでいってほしいと思います。

( 大野 靖子 記 )

猛暑お見舞い申し上げます。

今年も日本が暑い。全国各地で猛暑日が続いています。私の仕事は、外での仕事なので少々バテ気味です。この暑さはいつまで続くのでしょうか? 皆さんも体調には気を付けてください。  
最後に、作業に出られなくて申し訳ございません。

( 益田 真一 記 )